

難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業の概要

研究代表者	所属施設	研究課題名	研究内容の概要
泉 並 木	武蔵野赤十字病院 消化器内科	慢性肝炎・肝硬変・肝癌の病態解明と各病態および都市形態別で求められる医療を考慮したクリティカルパスモデルの開発のための研究	医療資源別に、都市形態のパターン化が試みられ、4つの都市形態別に分類が行われた。各都市形態別に、ウイルス肝炎検診を行っている医師に対して、ウイルス肝炎検診や肝疾患の診療におけるアンケート調査が行われ、効果的な医療連携のためのクリティカルパス作成の問題点の把握が行われた。
龍 岡 資 晃	学習院大学法科大学院	肝炎ウイルス感染者に対する偏見や差別の実態を把握し、その被害の防止のためのガイドラインを作成するための研究	研究の目的を達成するためには、偏見や差別の実態を把握することが重要であることから、肝炎患者や医療従事者、機関・団体などに質問票を用いた実態把握調査が行われた。今年度は肝炎患者等に対するヒアリング調査も実施しこれらの結果の集計や分析作業が行われる予定である。
八 橋 弘	国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター	病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究	肝疾患患者団体が過去に実施した患者アンケートや国民生活基礎調査の内容を参考にして、B型、C型肝炎ウイルスに起因する慢性肝炎・肝硬変・肝がんなどの肝疾患患者等を対象とする調査票の作成が行われた。現在、これらの患者に対して今年7月末をメ切とするアンケート調査が行われているところである。
四 柳 宏	東京大学医学部 感染症内科	集団生活の場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究	肝炎情報センター並びに拠点病院において、ヒアリングによる調査を行い、肝炎に関して、医療現場や患者から寄せられる質問の把握が行われた。これらを元に、一般生活者や肝炎患者・家族を対象とする感染予防ガイドライン（原案）の作成が行われた。
渡 辺 哲	東海大学医学部	職域における慢性ウイルス性肝炎患者の実態調査とそれに基づく望ましい配慮の在り方に関する研究	労働者のウイルス性肝炎に関する知識・認識や、ウイルス性肝疾患に罹患した労働者への就業上の配慮に関する実態を把握するために、神奈川・東京・埼玉の無作為抽出した事業者を対象とした調査票による実態調査が行われた。今年度は、他の地域への実態調査が行われる予定である。
相 崎 英 樹	国立感染症研究所 ウイルス第二部	慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集の在り方等に関する研究	人口や環境が異なる石川県、山梨県、愛知県での肝炎ウイルス検診陽性症例の情報収集の取り組みについて、調査が行われ、現状と課題の把握が行われた。

研究代表者	所属施設	研究課題名	研究内容の概要
加藤 真吾	慶應義塾大学医学部	肝炎ウイルス検査体制の整備と普及啓発に関する研究	(平成24年度から開始) 保健所等における肝炎ウイルス検査ガイドラインの作成や全国の肝炎ウイルス検査マップの作成が行われる予定。これまでに、東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県の実態調査が作成され、すでに公表されている。
工藤 正俊	近畿大学医学部	慢性ウイルス性肝疾患の非侵襲的線維化評価法の開発と臨床的有用性の確立	肝生検に代わる新たな非侵襲的肝線維化診断法の開発を目指し、肝組織を採取する予定のある患者を対象に新たな超音波技術(組織の歪み情報を画像化)と肝組織の比較検討が行われた。
田尻 仁	大阪府立急性期・総合医療センター 小児科	小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	研究代表者・研究分担者の施設において把握している小児のB型慢性肝炎及びC型慢性肝炎の患者数について、概数把握が行われ、これらの患者の経過や治療法の効果に関する実態把握が行われた。今年度は調査票を用いた全国規模の実態調査が行われる予定である。
田中 英夫	愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部	肝炎対策の状況を踏まえたウイルス性肝疾患患者数の動向予測に関する研究	我が国のB型およびC型慢性ウイルス性肝炎患者数を推計する方法として、がん登録資料から得られる肝細胞癌患者数と慢性肝疾患から肝細胞癌の発症確率を使用した逆算法によって推計する方法が考案された。
成松 久	独立行政法人産業技術総合研究所 糖鎖工学研究センター	肝疾患病態指標血清マーカーの開発と迅速、簡便かつ安価な測定法の実用化	簡便な肝線維化進展の指標となるマーカーの実用化を目指し、肝組織診断を行っている肝炎患者の血清を用いて、正当性検証試験が行われた。
平尾 智広	香川大学 医学部公衆衛生学	ウイルス性肝疾患に係る各種対策の医療経済評価に関する研究	文献レビューを行うことにより、B型・C型ウイルス性肝炎の自然史の経済モデルの作成が行われ、これを元に、ワクチン接種、ウイルス検査、標準的治療の介入を行った場合の経済モデルの作成が行われた。